

<シェリル・メイナー大佐の2020年12月13日のビデオメッセージ>

クリスマスにはイエス様の誕生を描いた聖誕劇を上演する教会があります。私の息子も子どもの時に三人の博士の一人として出演したことがあります。サイズが合わないブカブカの衣装を着て、裾を踏まないように気を付けないと転びそうでした。教会の後ろから博士たちが入場して、苦労しながら歩いて舞台上上がるのですが、手に持っている宝物を落とさないように、三人とも必死でした。劇でもそうだとしたら、本当の博士たちはどれほど大変だったことでしょうか。マタイによる福音書第2章にはイエス様を訪ねて拝んだ博士たちのことが記されています。彼らは東の国の宮廷に仕えている大変博識な学者たちでした。マタイは、なぜイエス様の誕生の場面で博士たちのことを書いたのでしょうか。旧約聖書のイザヤ書には、諸国の王がメシアを拝むようになる、と預言されていますが、マタイは預言の成就として博士たちのことを書いたのだと思われます。興味深いことにマタイによる福音書の最後でも、諸国のことが述べられています。それは「全世界に出て行って、すべての人を弟子にしてください」というイエス様の言葉です。ここから、マタイによる福音書のはじめでもおわりでも、イエス様が全世界のすべての人の救い主であることが示されています。三人の博士はイエス様を拝みましたが、当時ユダヤの王であったヘロデは、どのように反応したでしょうか？ 博士たちが救い主の誕生を告げたとき、ヘロデは律法学者や祭司長たちに問いただただけで、決して自分の足で探しに行こうとはしませんでした。聖書は、イエスが道であり真理であり命である、と言っています。しかし、真剣にイエス様を探し求めようとする人は、あまり多くありません。博士たちが宝物を携えて命がけで旅をしてイエス様を探し求めたのに比べて、ヘロデ王はイエス様に無関心でした。あなたなら、イエス様の誕生に対してどのように反応しますか？ 私たちは、ヘロデ王のように、イエス様に無関心であることもできますし、博士たちのように、イエス様を救い主として拝むこともできます。どうか、あなたも博士たちのように応答してくださることを願っています。そして、あなたがイエス様を救い主として知ることができるように祈っています。